

## 黄色灯を設置するとハサミムシ類などの天敵が増加

淡路島ではレタスの難防除害虫であるオオタバコガ等のヤガ類に対して黄色灯を点灯し、防除に利用している。一方、黄色灯には、各種の昆虫類が誘引されるが、それらの中には天敵として有用な昆虫類も含まれている。その中でオオハサミムシの利用方法を検討し、有用性を実証した。

### 内 容

黄色灯に誘引される天敵類はハサミムシ類、ゴミムシ類などの歩行性捕食性昆虫、ヒメバチ類等の捕食寄生性昆虫、テントウムシ類、ハナカメムシ類、ヒラタアブなどである。このうちで歩行性の天敵類について、当センター内に設置した黄色ナトリウム灯(写真)の光源から10mの地点(照度：5ルクス)と、80mの地点(同：0.05ルクス)にピットフォールトラップ(紙コップを土中に埋め込んだ落とし穴)を5個ずつ設置し、捕獲状況を調査した。その結果、ハサミムシ類、ゴミムシ類等の歩行性捕食性天敵は黄色灯の近くに誘引される傾向があった(図)。クモ類に関しては光源からの距離が遠い方で多数捕獲されたが、これは餌となるヤガ類の幼虫が遠い方に多かったためと考えられる。

黄色灯に誘引される天敵のうち、オオハサミムシについて、オオタバコガ3齢幼虫の捕殺量を調査したところ、1日当たりは2.2個体となった(4反復、5日間平均)。捕食状況は尾部のハサミを使い、相手を捕まえて食べる場合が多いが、ハサミで捕まえただけで食べない時もあり、その場合でも相手は挟

まれた傷により死んでしまうため、これらの行動も天敵として利用するのに有効である。

また、ハサミムシ類は石の下などに巣穴を掘り、そこで増殖する習性を有する。うね面にマルチを設置することは、誘引したハサミムシ類を定着させ、増殖させることができるのですみかとして有効である。

### 今後の方針

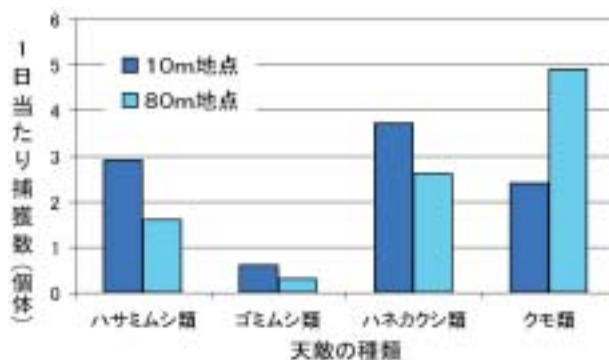
今後は天敵類の誘引に有効な光の波長、照度、またマルチの種類や天敵類に悪影響のない薬剤の使用方法などについて検討する予定である。また、歩行性捕食性天敵の利用例は少ないことから、他のゴミムシ類、ハネカクシ類やクモ類とも併せて、これらの増殖及び利用法を検討する。

また一方では「いくら天敵でもこんな気持ち悪い虫が増えたらかなわん」といった生産者の声もあるなど、いろいろと難しい課題も残されている。

二井 清友(淡路農技 農業部)  
(問い合わせ先 電話：0799 - 42 - 4880)



淡路農業技術センターの黄色灯設置状況



光源からの距離の違いによる天敵類の捕獲数  
(9月15日～10月15日)